2022 年 11 月 18 日

主催：日本農芸化学会中四国支部
共催：鳥取大学研究推進機構　未利用生物資源活用研究センター

支部創立 20 周年記念 第 43 回 市民フォーラム
「鳥取の海を知る」を終えて

2022 年 10 月 22 日（土曜日）、パレットとっとり市民交流会館（鳥取市）で 13 時から 16 時まで開催した市民フォーラムには島根県からも参加していただき、38 名の一般の方から高校関係、大学関係、報道関係まで幅広く聴講していただきました。

産の立場から、海産物のきむらやの舟越稔様には、食品開発と研究の両立を自社で行い、明らかにした機能性と、これまで培ってきた知識を新たな事業展開に繋げた成功例などを講演していただきました。

官の立場から、産学の橋渡し役や独自に食品・技術開発をおこなっている鳥取県産業技術センター食品開発研究所の藤光洋志様には、これまでの食品開発の経緯や社会実装に必要な簡便な技術開発の重要性などを講演していただきました。

学の立場からは、公立鳥取環境大学の太田太郎先生と鳥取大学の八木寿梓先生に講演していただきました。太田太郎先生は水産物の利用には環境維持とのバランスの重要性を、調査された水域環境の変化について時系列で示されました。八木寿梓先生は、今後起こりうるさまざまな世界・日本・地域課題に対して、その一つの方法として未利用資源の付加価値を高め、利活用していくことの重要性について研究成果をもとに紹介されました。

食品問題や健康問題などについて一般の方からの質問や、閉会後も残って質問していただける方もおられ、関心の高さを知ることができ、今後もこのような取り組みを継続する必要性を認識しました。